

## 第1回湖西市立学校教育施設適正化検討委員会記録 概要

- 1 日 時 令和3年6月14日(月) 15時00分～16時40分
- 2 場 所 湖西市役所 市長公室
- 3 出席者 島田桂吾、袴田雄司、疋田貴之、板倉福男、鈴木誓子、後藤裕一、杉浦よしみ、西川睦弘、黒柳孝江、新美留美、鈴木聖慈

### 4 教育長から

- 市内は学校ごとに特色ある取組みがなされ、地域の方々が力を惜しまずに協力してくださっており、地域の子は地域で育てるという風土があると思う。
- 少子化が予想を上回る速さで進んでおり、その中で学校施設の老朽化もあり、大規模改修するのか、新たに作るのかという検討の時期にもなっている。その際に、今後の適正規模や適正配置について考えをまとめる必要があり、この会を開催することとした。
- 子どもたちの学校生活にとってよりよい状態、地域にとって活力が生まれる状況、これをどうしたらいいだろうかという視点で検討してもらいたい。将来、湖西市を担ってくれる子どもたちにとっても、地域にとっても「こういう学校があるといいな」という、夢や希望がある話し合いになるとよいと考えている。

### 5 概 要

検討委員会は、近年の急速な少子化の進行により、今後の本市の小中学校の適正規模と適正配置について検討するために開催された。第1回は、検討委員会の目的とこれまでの経緯、市内の幼稚園、こども園、保育園、小中学校の現状について事務局から説明をした。委員は、現状についての見解を共有し、今後の検討に必要な資料等について協議した。

### 6 現状について委員の意見

- ・適正な通学距離を文科省の手引きでは、小学校4km以内、中学校6km以内となっているが、小学校では、最長が4.3kmとなっている。
- ・文科省の手引きでは、小・中学校の標準的な規模を12学級以上18学級以下としている。1学年では、小学校で2～3学級、中学校で4～6学級となる。その基準を本市に当てはめるといふ考え方ではなく、本市の実情や将来推計などから多面的に検討し、判断していく。
- ・適正配置を考えるときには、地域の方の思いを学校教育活動に生かしている現状を参考にしていくことや、コミュニティ・スクールをどのように運営していくのか検討することも必要だ。
- ・同じ通学距離4kmでも、高低差があると違ってくる。アップダウンがあると自転車通学者への影響が大きい。
- ・日本は学級数によって、教員の数が決まってくる。職員数で見たときに、先生たちにとってどのような負担があるのか、校務を行う上で、職員にとって、子どもたちにとって、地域にとって望ましい職員数とはどれくらいかを考える視点も大切である。
- ・登下校について、行きだけバスを利用している子どもは、帰りは、家の方の迎えか歩いてということになっている。家の方の協力で安心して登下校できている。長い距離を歩くのは危険も伴うため、登下校の安心安全を今後の話し合いの中でも考慮する必要がある。

- ・自分の学校に部活動がないため、許可を得て、他校の部活動に参加している保護者が送迎に負担があるという意見を聞いたことがある。
- ・部活動のあり方は、文科省から令和5年度以降、地域部活動、拠点校化していく方向が示されている。本市がどのようになっていくのかは、まだ明確ではないが、広い範囲の移動も生じてくるので、共働き家庭が増えている中で、通う方法は課題となると予想される。
- ・都会では、通学距離が長くても、交通網が発達していて困ることはないが、本市はバスに頼らざるを得ない。路線バス、コーちゃんバスの利用だけでなく、適正配置を考えるとスクールバスを検討することも必要ではないか。
- ・適正配置で、通学に関する公平公正を議論する際に、スクールバスなのか、コミュニティバスなのか、受益者負担なのか市負担なのかを議論する必要がある。
- ・先生の仕事の負担が大きくなっていると聞いている。学校規模によって、どのように負担が変わるのかについても考えていけるとよい。
- ・小規模校は、PTAの活動に積極的、少人数なのでやるしかないと思っていることを感じる。小規模校の一体感はすごく良い。
- ・PTA活動に感謝しつつ、学校として保護者の負担を軽減することも考えている。
- ・小中学校の耐震化は済んでいるが、雨漏りなど老朽化は進んでいる。
- ・先生の働きやすい環境も大切だと思う。教員のトイレが和式で古くて、すぐ横に男性トイレとなっているところもある。
- ・子ども、保護者、地域の考えを吸い上げるような機会は必要だと思う。
- ・市民の皆さんが当事者意識をもって、前向きに学校をどうするのか考えていけるとよいので、どのような形かは検討が必要であるが、意見をもらう機会を設けたい。
- ・仮に統廃合するとして、その後の利用をどうするのか、避難所としての利用も必要なことだと思うので、検討できるとよい。
- ・適正規模や適正配置は、正解のない問題で、難しい問題であるが、子どもたちの未来のために議論を重ねていきたい。

## 7 必要な資料

- ・磐田市は早い時期からコミュニティ・スクールを立ち上げている。地域との連携は大切であるので、他市のコミュニティスクールのメリットや事例など知りたい。
- ・適正配置について検討するとなると、通学距離の問題が生じる。他市のスクールバスやオンデマンドタクシーの活用状況や保護者、市の負担などの状況が分かるとよい。
- ・今後の学校施設のあり方を判断する上で、学校施設の修繕費の推移や各施設の老朽化による雨漏りなどの状況を示す資料がほしい。
- ・少子化の現状について、保護者が問題に感じていることや地域の方の考えを知る機会をもてるとよい。その方法についても検討していきたい。
- ・将来の学校の推計を考える上で、今後の企業の誘致、住宅の造成などの情報も資料として必要である。
- ・安全安心な立地であるのか、非常時の学校施設の利用などを知るために、避難所マップやハザードマップがあるとよい。